

52. ^{たま}溜り遺跡 (217)

黒田字溜り

遺跡の概要 名張川が市街地の南を流れ、宇陀川と合流する対岸が黒田地区である。名張大断層の崖堆物の二次堆積としての扇状地が、無動寺や勝手神社を中心とする黒田地区の中心として利用されている。溜りの字名はその名の通り、土砂が扇状地上手から流れ出て、この地に溜まったことからいわれたとされる。その反映としてこの字名の土地は、地形に沿って上下に長い。

遺構と遺物 溜り遺跡は古墳時代前期を中心とするが、扇状地先端下の水田からは弥生時代後期後半の土器が水田下より採集されている。現在、錦生公民館で展示されている。残り具合の良さやセット関係から、もしかすると方形周溝墓の周溝に埋められた土器かもしれない。

南側の堂ヶ谷遺跡は、斜面上方のB地区が縄文時代、下方のA地区が溜り遺跡と同時期と考えられる。伊勢湾台風の災害復旧の際に5m四方の竪穴住居が見つかったとされる。

古墳時代前期の土師器はあちこちに散布しており、容易に採集することができる。(門田了三)



位置図 (1 : 5000)